

中川村新しい学校新聞

第1号 / 2025.9.13

発行元 / 中川村教育委員会

企画編集 / 学校をともにつくる会

新しい学校への これまでの歩み

まったこの検討では、小・中学校を統合、小中一貫教育を行う義務教育学校を新設し、新しい教育に取り組もうという構想が生まれました。それを実現するために「中川村新たな学校づくりプロジェクト」はスタートしました。



中川村では、子どもの数が減少したことで先生の数も減り、古くなった校舎は子どもの学習や生活に合わなくなってきました。そこでこれからの学校のあり方を検討しようということになりました。令和3年度から始

新たな学校づくりプロジェクト スタート！

シンポジウム

住民アンケート

話し合い

専門家の意見

アンケート

子ども部会

村民の声

ワークショップ

イマココ

令和7年

ふるさと中川学

ごちゃまぜに学ぶ

小中一貫の義務教育学校 開校！

令和13年4月

行動して、人生を開拓する力を育む」という教育方針の元、教育委員会では令和13年4月の開校を目指しています。

これまで、アンケート、地区懇談会、ワークショップなど様々な機会を設け、村民の声を集めてきました。その結果打ち出された、「自ら考え、判断し、

オール中川で進める 「みんなの学校」に かたぎりとしお(教育長)

現代は「ブリーカの時代」と言われます。不透明で将来の予測が困難な時代」という意味です。中川村の子ども達がこうした時代を生き抜くために、「自ら考え、判断し、行動する力」を育むことが大切だと、村民の皆さんや子ども達との対話から導き出されました。

応援コメント！ はやさかじゅん (長野大学 教授)



それを、探究的に学ぶ、「ごちゃまぜに学ぶ」、「中川村全体を学びの場としてグローバルに学ぶ」ことを通して実現しようというのが、新しい学校でやろうとしている教育です。具体的には「ふるさと中川学(仮称)」を創設して取り組むたいと考えています。

私は中川村が好きです。美しい景観はもとより、そこで暮らす人たちが素敵なのです。

中川村には、ここでの出来事に自分事として向き合いたい、未来に向けて現在(いま)でできることに全力で関わろうとされる方がいらっしゃると思います。中川村のよりよい未来を願って、いま様々な人が立場を超えて「新たな学校」という橋を未来に架けようとしています。そんな中川村がやっぱり私は好きなのです。

私の学校の思い出 インタビュー第一回 なすのさちこ (みなかた保育園 園長)



小学校時代は、すべり山で遊んだり、高い鉄棒で難しい技の練習をした。遊んだ思い出ばかり。放課後は6時の鐘が家に帰る合図だった。あ、運動会、水泳大会、スケート大会の前には特別があつて、中学の部活みたいに厳しかったんだよ。音楽会や卒業式の送る言葉なんかの練習もとこみんな頑張ってた。今でも、卒業式の送る言葉覚えてるよ！修学旅行の作文なんかは100枚以上書かなくちゃいけなかったりしてね。新しい学校ではひとりひとりがやりたい事を思う存分できたらいいなあ。

編集後記

この新聞を録取る編集は、中川村のたくさんの子どもたちと大人で力を合わせて作りました。この新聞も、新しい学校も、同様にみんなの力で作りたいと思います。ご意見、ご感想ありましたら公式インスタグラム、もしくは備え付けのお便りポストにお送りください。



学校をともにつくる会
公式 Instagram

燃えよ三銃士！ 一筆/3銃士

